



人間牧場主  
若松 進一

## 螺旋状に上ると 伝統になる

青年団、公民館、産業課、まちづくりと私の半生は住民運動とともに過ごしたといっても決して過言でなくくらい深く手を染め、その中でもイベントは数限りないほど手がけ、失敗したりある程度の成果を取めたりしてきました。単発では列車を一両借り切った「コスモス鉄道ふたみ号2001年の旅」、寝ないで350人の町民が語り明かした「18時間マラソンシンポジウム」、20世紀最後の夕日を見る会、10年間で40回開催した「フロンティア塾」、20年間続けた「無人島に挑む少年のつどい」などがあります。「夕焼けプラットホームコンサート」や「ホタルの里ふたみほたる祭り」、「サンセットロマンチッククリスマスマス」、「初春水仙祭り」などは今に続いて開催され

ているのですから驚きです。

愛媛県内でいえば平成の大合併が行われる4年半前までは、70市町村が競争するようにしのぎを削ってイベントに熱を入れていました。

ところが広域合併して20市町に再編されると、同じエリア内に同じようなイベントが数多くあつて競合し、合併による見直しと財政難を理由に淘汰され、その数は減少の一途をたどっているようです。

イベントには、始めるイベント、続けるイベント、高めるイベント、止めるイベントなどがありますが、これまではどちらかという自治体から補助金などの財政的支援があるから仕方なくやるといった、マンネリ化した無意味なイベントも数多くあつて、今回の見直しにより止めるイベントにリストアップされたものは、ある意味理にかなったチャンスだと内心喜んでいるのです。しかし一方では遣い伝えて欲しいイベントが、画一的な財政支援の打ち切りによって消えてい



第24回プラットホームコンサート



1月16日・17日に開催される「初春水仙祭り」

て複雑な気持ちになるのです。

私を手掛けて長く続いているイベントに「夕焼けプラットホームコンサート」と「ホタルの里ふたみほたる祭り」というイベントがあります。略称夕焼けコンサートは24回、ほたる祭りは23回続いている人気イベントですが、長く続く条件はざっと考えて人・もの・金・事・情報は五つぐらいではないかと思うのです。まず一つは「事」、つまり「何のために」という基本コンセプトがしっかりしていることです。夕焼けコンサートが始まったころ、県内には出演する有名人の名を借りた高額資金のコンサートが幾つか

あって、私の町のコンサートなどは会場も無人駅のプラットホーム、出演者も無名に等しい人ばかりで、看板とて手づくりゆえに、アーティストたちは見向きもしませんでした。でも「夕日」が主役である「予讃線海岸周りの存続」という基本コンセプトをしっかりと守って続けてきたから、他のコンサートが金がなくなれば止めてしまう風潮の中で生き延び、今日まで続いているのです。またほたる祭りもホタルを一匹も登場させない、つまり環境を良くすればホタルは増えるという基本コンセプトを守った結果、木造校舎の翠小学校を拠点にしたグリーンツーリズムへと発展しているのです。「理念なきイベントは滅びる」とはけだし名言です。

二つ目は「人」の存在です。音楽が好き、ホタルが好きというキーマンたる好き者たちが運営委員会を組織し、加えて音楽に造詣の深いプロの人たちや環境問題に詳しい専門家が内外でうまくからみ、日常活動をしながらかつ結ばれ、新しい風を吹き込みながら次なる夢を語り



第23回ホタル祭りの様子

合って続けているのです。イベントはまちづくりの一环、つまりイベントによって町やそこに住む人が元気になるためにやるものから、いい人の存在がいいイベントを作って行くのです。夕焼けコンサートもほたる祭りもよき人材に恵まれて、今も成長を続けています。

三つ目は「情報」です。夕焼けコンサートやほたる祭りを始めた四半世紀前は、情報といえば活字と映像媒体くらいなものでした。ゆえに宣伝告知もポスターやチラシに頼らざるを得ないし、やったことの紹介も思うに任せず苦労したものです。ところが最近ではインターネットが普及して、宣伝告知やその成果も瞬時にして双方向の情報飛び交うようになってきたのです。来た人たちに聞けば多くの人がインターネット情報でイベントの存在やその内容を知ったと答え、その数は年々多くなっています。また情報ネットワークをうまく構築すれば、これまで限界のあった遠隔地からも客足は伸び集客数増大につながるのです。

四つ目・五つ目の「もの」や「金」も勿論大切な要件ですが、いいイベントは企

業もPR活動で支援してくれるし、NPO活動などと絡めばものや金はさして問題ではありません。私たちはいつも口癖のように金がないからできないと、できない理由に資金不足を言い訳にしますが、やらないことをやれないと言っているだけだと思います。それは金がなくても24回続いた夕焼けコンサートや23回続いたほたる祭りが、いみじくも証明してくれているのです。10年間続けてマンネリになるイベントもあれば、伝統を重ねるイベントもあります。同じことの繰り返しはマンネリ、伝統は螺旋状に上って行く過程で新しい芽が伸びること、20年を超えて生き残っている県内のイベントに共通するのは総合すると企画力、それに人間力かも知れません。

長続き するにはするの 訳がある  
 金がないなど 言い訳過ぎぬ  
 手間暇を かけてするから 長続き  
 手抜き工事は 自信に弱い  
 イベントは 人の良し悪し コンセプト  
 情報ネット 少し工夫で  
 マンネリと 伝統どこが 違うのか  
 平地歩くか 螺旋昇るか  
 (若松進一 笑売噺より)